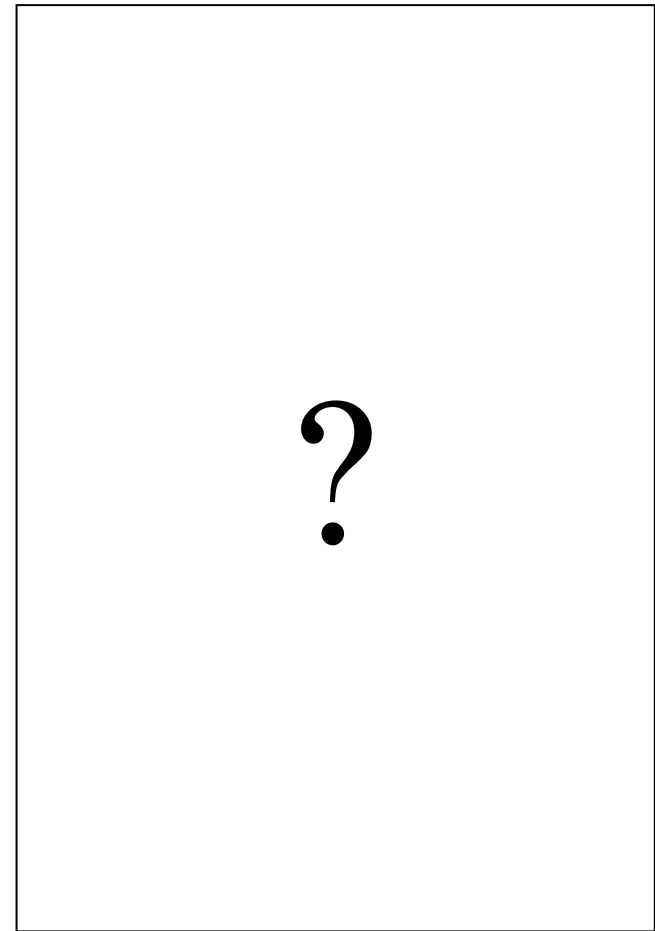


山場である、北極出地や皆既日食がそもそも史実としてまったくない話というのは、「坂の上の雲」で二〇三攻略や日本海海戦が完全にフィクション。そもそも、そんな戦闘はありませんでしたってのとある意味同じだしw

要するにこれ、水戸黄門諸国漫遊記並に、史実との乖離があるわけだな。映画化の段階でさらに顕著となるわけだが・・・要は「北極出地の旅」はなかった…フィクションということですね。

そもそも、最後の金環日食のシーン、あの年、日本では、皆既、金環はもちろん、部分日蝕すら発生していない。

「あの北斗七星が今の場所に戻るころには（うろ覚え）」とか言ってるけど、地球は自転してるんだから一日周期で北極星の周りをぐるぐるしてるよね 毎日同じ場所に来る時間があると思うけど



関が渋川の改暦に協力した事実は無い。

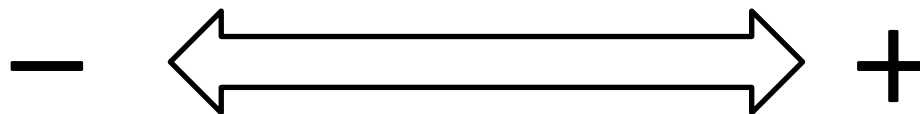
凶日に嫁入りした娘さんかわいそ

関さんは甲府藩の役人だった筈なのに、なんで貧乏浪人みたいに描かれてんのか気になります

御城基打ってるのに、剃髪なくていいの？

「必至」という台詞が生きてこないよね。

既出だろうけど原作の参考文献として引き合いに出された学者さんがお怒りのご様子
<http://dyna.geo.kyushu-u.ac.jp/~yoshida/japanese/books/2012/ubukata20120525.html>



エピソードそれぞれの起承転結の、起が抜けてたり結を省いたり…継承が大事な話だと思うのだけど、それが断たれてる。

ここでウソ臭いってのは史実うんぬんじゃなくて、そういう場面自体がありえないってことね

史実とフィクションの配分というか、調合の割合が上手くいってないのでは？

フィクションでもノンフィクションでもいいけど、単純にこの映画は面白くない。面白くなるとって入れたフィクションかわ、尽く失敗してる。

『私より先に死なないで下さい』の台詞はお互い死別を経験してるからこそ響く部分もあったから変えないでほしかったなあ。

映画では「若い師というのはいいぞ」で終わった。その後の「教えを乞うている間に師が逝かないから」というオチを省略しちゃダメだろ。

ところで3層勝負に失敗した後、あの夫婦はどうやって生活費かせいたの？

ちょww 忍者www 山崎先生wwwとか、突っ込みどころは多々あった

瑠天儀供養（ことの役割をえんにさせる）とか入れればいいのに

あおいが年も取らず、ふっと現れたりするから、

長いダイジェストを見ているようで判断に困った

ただ長い…前半（旅が終了するまで）がコミカルだった分 後半がちょっとクドク感じた

囲碁の話から、あっちこちに伝手があって、それを生かしまくったという感じがもっと強いといいのに。。

観測と計算の勝利だ、と（映画的に）もっと感動してくれても良かったと思う。

岡田の外見が変わらないことだな

あおいかわいいなあ

オーディオコメンタリーとかで史実や風俗の違いとかを解説してほしいなあw映画画きっかけで、昔の事知りたいい人もいるでしょう。

後半も普通に良かったんだけど、前半の北極出地が良すぎて後半が霞んじやった気がする。

特に北極出地のシーンがよかったな、あんな風に観測してたのか、と 歩測のシーンとか面白かった。

エンディングロールのシーンのCGがとても美麗で飽きなくて、

さっき観てきた光圀の食卓・・・テーブル上の洋食、鶏の丸焼き 一瞬「サラメシ」想い出した、貴一っちゃ〜ん。

なんだ一面白いじゃん。海外でもウケそうだけどな。和算術とか、御城碁とか、公家風俗とかさ。> 海外でもウケそう

映画は娯楽やし、教育番組ではないのやから、これでええのです。